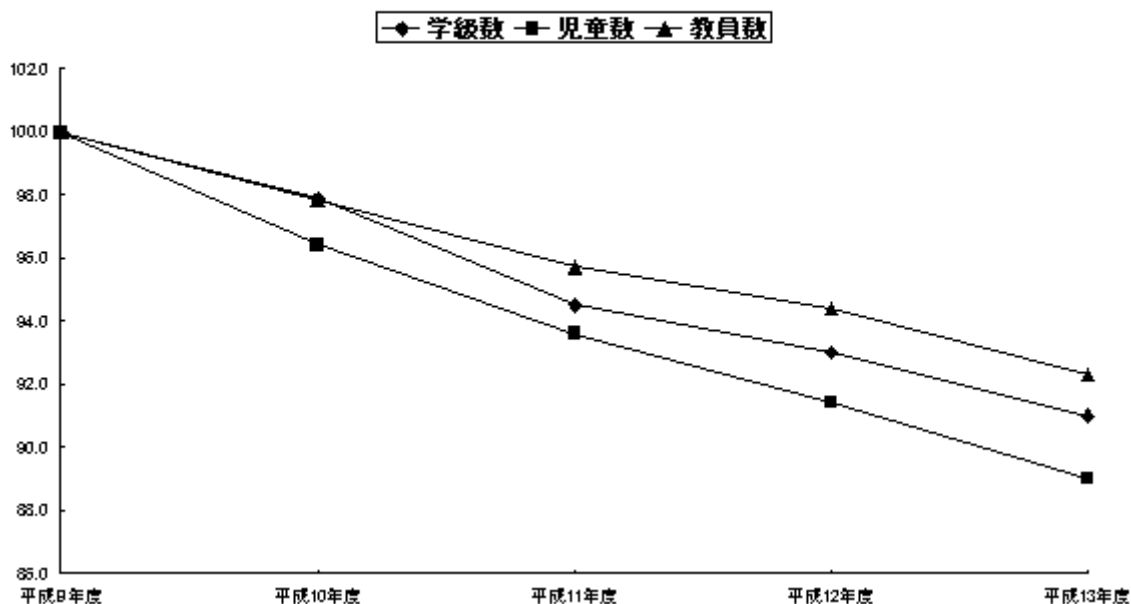


1 小学校

小学校は前年度より6校減少し284校(うち国立1校、私立2校)で、児童は46,891人と前年度に比べ1,256人減少した。そのため、学級も2,065学級と前年度と比べ46学級減少し、本務の教員も3,338人と77人減少した。

図1 小学校の児童数、学級数、本務教員数の推移
(平成9年度=100)



1学級当たり児童では22.7人と前年度に比べ0.1人減少し、本務教員1人当たりでは14.0人と0.1人減少し、ここ数年減少傾向にある。

長期欠席児童(前年度間に通算30日以上欠席した児童)は、534人で前年度と同数で、全児童に占める比率(長欠率)は、1.14%と前年度より0.03ポイント増加した。

表1 小学校理由別長期欠席児童(30日以上欠席した児童)数

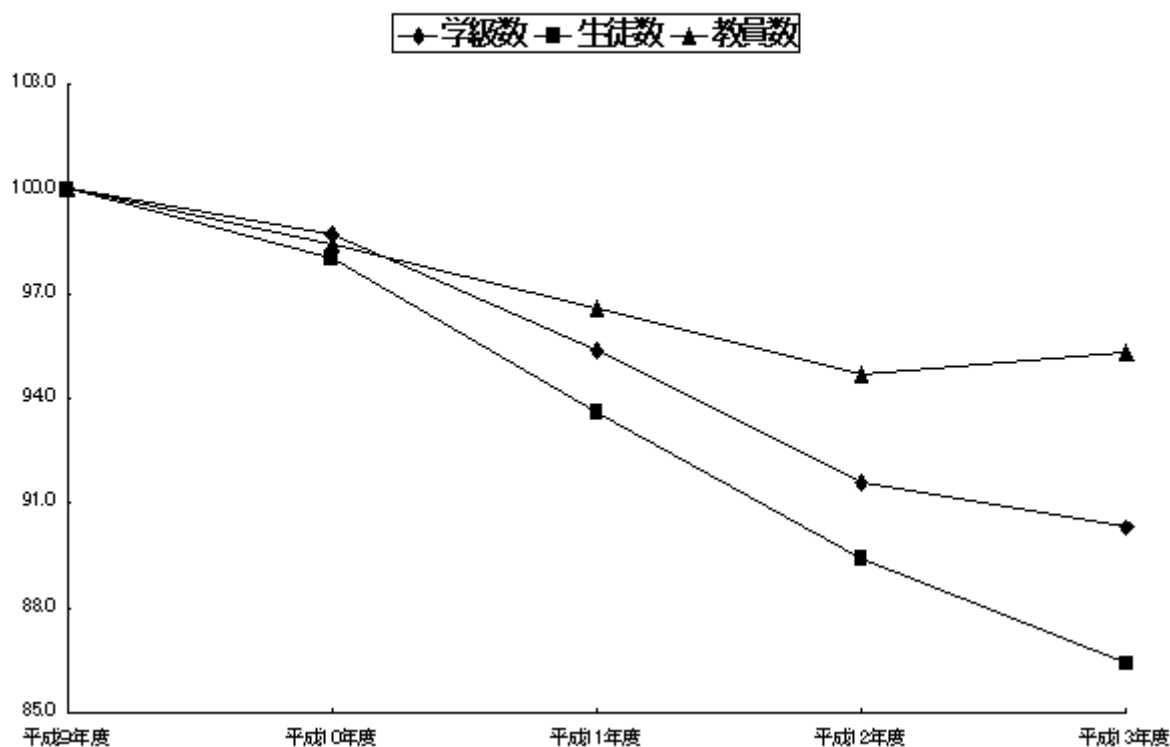
区分	理由別生徒数					長欠率 (%)
	計	病気	経済的理由	不登校	その他	
平成8年度	560	347 (62.0)	15 (2.7)	106 (18.9)	92 (16.4)	1.08
平成9年度	611	362 (59.2)	30 (4.9)	118 (19.3)	101 (16.5)	1.16
平成10年度	592	329 (55.6)	14 (2.4)	173 (29.2)	76 (12.8)	1.20
平成11年度	534	274 (51.3)	1 (0.2)	181 (33.9)	78 (14.6)	1.11
平成12年度	534	301 (56.4)	3 (0.6)	175 (32.8)	55 (10.3)	1.14

(注) 括弧は構成比 (長欠率)=(長期欠席児童数)÷(児童数)

2 中学校

中学校は前年度と同数で 97 校（うち国立 1 校、私立 2 校）で、生徒は 26,571 人と前年度に比べ 904 人減少した、学級も 890 学級と前年度に比べ 13 学級減少した。しかし、本務の教員は 2,108 人と前年度より 14 人増加した。

図2 中学校の生徒数、学級数、本務教員数の推移
(平成9年度=100)



長期欠席者は 1,062 人と前年度に比べ 88 人増加し、長欠率も 4.00%と 0.45 ポイント増加した。

表2 中学校理由別長期欠席生徒（30日以上欠席した生徒）数

(単位：人)

区分	理由別生徒数					長欠率 (%)
	計	病気	経済的理由	不登校	その他	
平成8年度	896	284 (31.7)	11 (1.2)	441 (49.2)	160 (17.9)	2.85
平成9年度	932	293 (31.4)	14 (1.5)	515 (55.3)	110 (11.8)	3.03
平成10年度	1050	212 (20.2)	13 (1.2)	759 (72.3)	66 (6.3)	3.65
平成11年度	974	171 (17.6)	4 (0.4)	723 (74.2)	76 (7.8)	3.55
平成12年度	1062	187 (17.6)	5 (0.5)	791 (74.5)	79 (7.4)	4.00

(注) 括弧は構成比 (長欠率)=(長期欠席児童数)÷(児童数)

3 高等学校

高等学校は前年度と同じ53校（うち私立4校）で生徒28,052人と前年度に比べ601人減少した。そのため学級も780学級と前年度に比べ20学級減少し、本務の教員も2,176人となり17人減少した。

学科別生徒数をみると普通科が19,200人と最も多く、次いで商業科3,071人、工業科3,015人の順になっている。

また、この構成比を年次別で見ると、総合学科は若干構成比を伸ばしているが、他の学科では同じかわずかな増減にとどまっている。

表3 高等学校学科別生徒数構成比
<全日+定時>(本科)計

(単位:%)

	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	その他	総合
平成9年度	100.0	67.1	3.5	10.5	13.7	0.6	2.2	0.8	1.2	0.5
平成10年度	100.0	68.1	3.5	10.5	12.5	0.6	1.8	0.8	1.3	1.0
平成11年度	100.0	68.8	3.5	10.4	11.6	0.6	1.6	0.8	1.4	1.3
平成12年度	100.0	68.7	3.7	10.5	11.2	0.6	1.6	0.8	1.4	1.5
平成13年度	100.0	68.6	3.7	10.8	11.0	0.5	1.8	0.8	1.4	1.5

4 盲・聾・養護学校

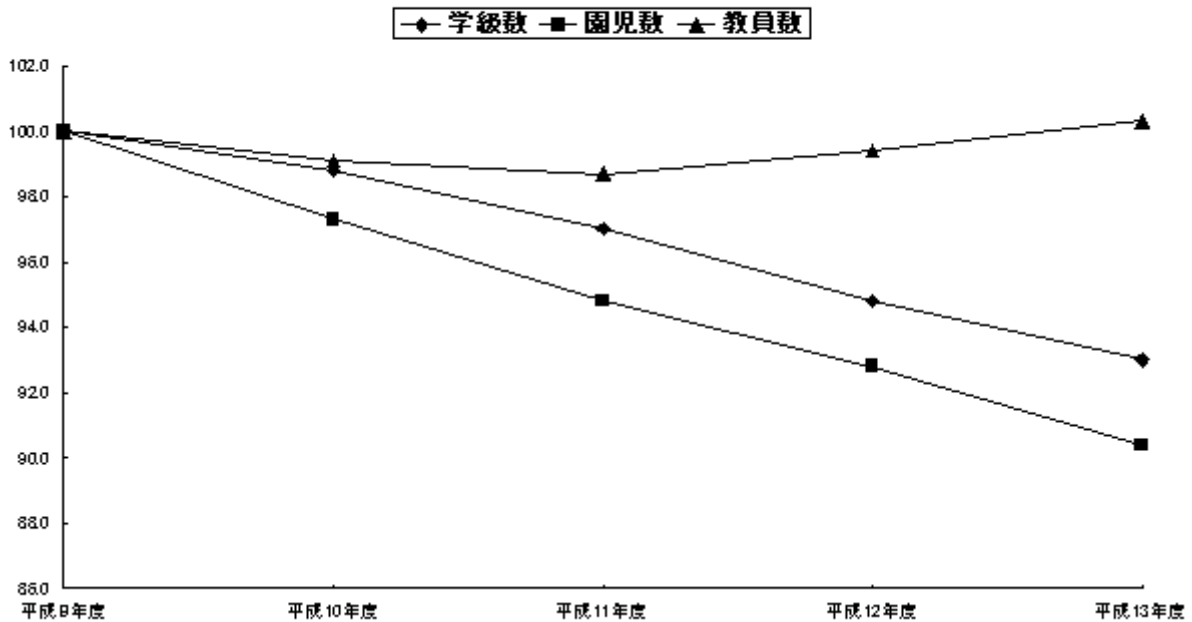
特殊教育諸学校は盲学校 1 校、聾学校 1 校、養護学校 8 校で前年度と同じだが、児童・生徒は盲学校 70 人（前年度比 4 人減）、聾学校 49 人（前年度比 5 人増）、養護学校 687 人（前年度比 19 人増）と全体で 20 人増加した。学級は盲学校 21 学級、聾学校 20 学級、養護学校 211 学級と全体で 2 学級増加した。本務教員は盲学校 59 人（前年度比 2 人減）、聾学校 46 人（前年度比 8 人減）、養護学校 508 人（前年度比 11 人増）と全体で 1 人増加した。

また、本務教員 1 人当たりの在学者は盲・聾・養護学校全体で 1.3 人と前年度並であった。

5 幼稚園

幼稚園は前年度より1園増加し241園（うち国立1園、私立13園）で、在園者は9,905人と262人減少した。学級は533学級と10学級減少し、本務教員は775人と7人増加した。

図3 幼稚園の園児数、学級数、本務教員数の推移
(平成9年度=100)



小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の比率

$$\frac{\text{本年3月幼稚園修了者数}}{\text{本年度小学校第1学年児童数}} \times 100$$

は全国平均60.6%を大きく上回る74.1%である。

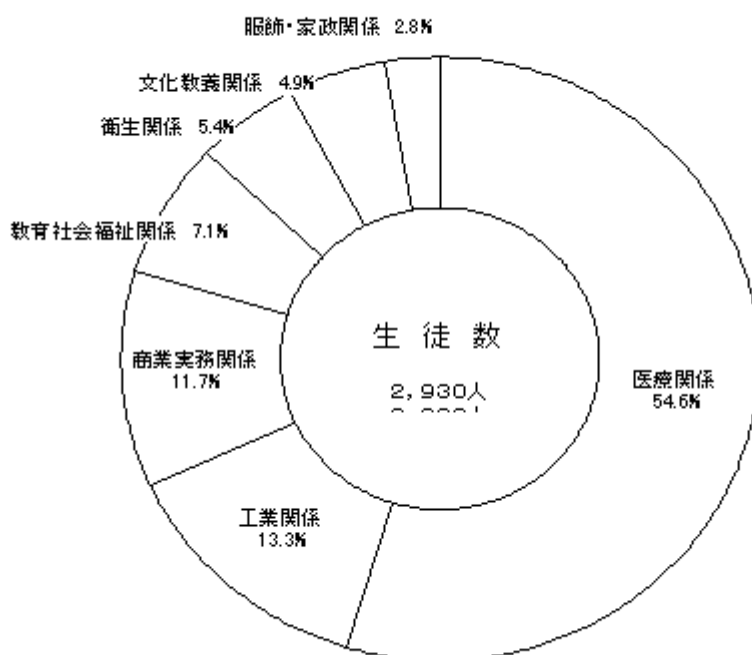
6 専修学校

学校は前年度より2校減少し26校（国立1校、公立2校、私立23校）であり、また県全体の学科は36学科であった。

生徒は2,930人（国立141人、公立657人、私立2,132人）と前年度より110人増加した。

生徒数の内訳では、医療関係が最も多く54.6%を占めている。次いで工業関係13.3%、商業実務関係11.7%となっている。

図4 専修学校分野別生徒数構成比



7 各種学校

学校は前年度より2校減少し24校（全て私立）で、課程は前年度より1課程減少し26課程であった。生徒は627人と前年度より91人減少した。また、その内訳は商業実務関係が71.0%を占め、次いで家政関係12.8%、医療関係12.3%の順になっている。

図5 各種学校分野別生徒数構成比

